

内科(4) (糖尿病・内分泌代謝内科) 臨床研修カリキュラム

研修責任者 山崎 雅則

1. 研修科の特色

糖尿病、内分泌代謝領域は、多くの臓器と密接に関連するため単一臓器に限定された医療ではなく、全身をしっかりと診察することを通じて幅広く病態を把握することが必要とされます。患者さんとのコミュニケーションを大切にしながら、分子レベルのメカニズムを解き明かすという非常にダイナミックな領域です。

皆さんは、病棟診療では直接の指導医とペアとなって主治医として診療を行います。チーム制を取っていますのでわからないことがあれば他の医師にも気軽に相談してください。診療に関する重要方針は、週1回の教授回診およびチームカンファレンスで話し合われます。必要に応じて看護チームともカンファレンスを行い、それぞれの患者に最善の医療を提供できるように努力しています。また、指導医とともに主に他院、他科からの紹介患者の初診外来を週1-2回担当していただきます。他科入院患者であれば、そのまま併診の主治医を担当しますので、他科の疾患も同時に学ぶことができ、他科との連携によるチーム医療を経験することができます。

経験できる疾患としては

糖尿病 : 1型、2型、その他の特定の機序、疾患によるもの、妊娠糖尿病

糖尿病合併症 :

慢性・・・網膜症、腎症、神経障害、虚血性心疾患、脳血管障害、足病変など

急性・・・糖尿病性ケトアシドーシス、高血糖高浸透圧症候群、低血糖症

内分泌：間脳下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、膵内分泌疾患、性腺疾患、遺伝性内分泌疾患

その他の代謝疾患：脂質異常症、肥満症、高尿酸血症、ポルフィリン症、電解質異常など

などがあります。

また、外来加療中の患者が肺炎、尿路感染症、急性腹症といった疾患で入院加療が必要な場合には当科入院となりますので一般内科疾患の入院主治医も経験できます。

皆さんの希望を最大限に考慮して担当患者を割り振ります。

充実した心身ともに健全である研修環境を保証します。

2. 研修目標

一般目標 GIO

一般内科としての知識や技能を身に付けることを基本として、糖尿病、内分泌代謝疾患を経験することで各疾患の病態、診断、治療を理解することを目標とする。

特に内分泌代謝分野では、その病態を考える上ではその患者の全身状態を把握することが大切であり、患者を全体的にとらえることに努める。

行動目標 SBO

1. 病歴を聴取し診療録に記載できる
2. 理学所見に基づき必須の検査を指示できる
3. 高血圧症の原因、病態、診断、治療を理解する
4. 脂質異常の原因、病態、診断、治療を理解する
5. 糖尿病の病因、診断、合併症を含めた病態、治療体系を理解する
6. 内分泌疾患（甲状腺、間脳・下垂体、膵臓、副腎）の病態、診断、治療を理解する
7. 肥満症の原因、病態、治療を理解する
8. 電解質異常の原因、病態、診断、治療を理解する
9. 高齢者に多い病態、必要な医療環境について理解する

3. 研修方略

(研修期間が4週の場合)

1. (SBO 2, 6) 内分泌疾患の検査計画を立て、それを実践してその評価ができる
2. (SBO 3, 4, 5, 7) 糖尿病、脂質異常症、高血圧症、肥満症について原因となる鑑別疾患を列挙でき、検査計画をたてそれを実践しその評価ができる
3. (SBO 3, 4, 5, 7) 生活習慣病患者に個別のプランを提示し、患者に治療の動機づけができる
4. (SBO 9) 老年症候群を正しく理解し、個々の患者の社会的背景を考慮し、他職種の医療スタッフと連携しチーム医療の一員として活動できる
5. (SBO 5, 8, 9) 栄養状態の把握ができ、低栄養患者に対する対策を他のスタッフと協力して遂行できる
6. (SBO 1, 2) 各専門分野への適切な紹介・コンサルトを行い、患者のトータルケアを推進できる

(Advanced (4週以上) の研修の場合追加される項目)

7. 内科地方会あるいはそれに類した研究会などで担当した患者の症例報告を行う
8. 上級医、指導医の助言のもと患者の医学的問題点を抽出し、その解決のための情報収集(教科書、ガイドライン、論文など)ができる
9. 問題の解決のために得られた情報や、上級医・指導医からの助言を通して、各内分泌疾患や電解質異常に対する治療戦略を提示できる
10. 問題の解決のため得られた情報を批判的に吟味し、ほかの医師と討論できる
11. 臨床実習の学生の指導に関わることで、自らの知識、技能を確認、向上をはかる

4. 週間予定

	月	火	水	木	金
午前	チーム カンファレンス 病棟業務	病棟業務 新患外来業務	病棟業務 新患外来業務	病棟業務 新患外来業務	病棟業務 新患外来業務
午後	総回診 抄読会	病棟業務	病棟業務 チーム カンファレンス	病棟業務 チーム カンファレンス	病棟業務

※新患外来業務は指導医・チームによってスケジュールが異なります

※火・水曜日午前には副腎静脈サンプリング検査等の放射線科との血管造影検査が予定されます

※(木)17:30-18:00 研修医クルズ

5. 評価

研修期間の評価

4 週以上の研修が不足なく行われていること。また、研修医は研修において経験した項目について随時 PG-EPOC に記録する必要がある。

研修中の評価

(形成的評価)

上級医や指導医からはチームカンファ時に必要に応じてフィードバックをかける。
病棟看護師からは適宜必要があればフィードバックを直接、あるいは上級医に伝達する。

研修後の評価

(形成的評価)

研修医は、当該研修科の研修期間の最終日まで、PG-EPOC の該当項目について自己評価を行う。
自己評価が終了次第、当該科の指導医、指導者（看護師長）にその旨を報告し、評価を依頼する。
研修中に経験した疾病、症状について病歴要約を作成・提出し、速やかに指導医へ評価を依頼すること。

当該研修科の指導医、指導者は、研修医評価票に記載された評価を用い、フィードバックを行う。

・研修医評価票 I に基づく評価

指導医・指導者（看護師長）が、A-1 から A-4 の項目について評価し、印象に残るエピソードを記入する。

・研修医評価票 II (1-9) に基づく評価

指導医・指導者（看護師長）が、1～9 の項目について評価する。

・研修医評価表 III に基づく評価

指導医、指導者（看護師長）が、C-1 から C-4 の項目について評価し、印象に残るエピソードを記入する。

臨床研修評価表 I～III を基に、責任指導医は臨床研修の目標の達成度判定票を作成し、当該研修期間における目標の達成状況を判定する。

(研修科の総括的評価)

当該研修科を修了とするに不十分であると判断された場合、卒後臨床研修センター長と協議し、再履修とする。

※当科の臨床研修指導医は卒後臨床研修センターWeb サイトにて確認してください。

信州大学医学部 内科学第四教室(糖尿病・内分泌代謝内科)

■住所：〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 ■電話：0263-37-2686(直通) ■FAX：0263-37-2710

■E-mail：aisa@shinshu-u.ac.jp

■URL：http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/department/doctor/grdkarei/i-karei/